

昨年末に坂井先生と一緒に食事をしました。ほんの小一時間の間でしたが沢山の学びがありました。まあ、とにかく安心感が半端無いww こういう先生から学んでる生徒さんが羨ましい。
僕もこういうオーラを持った上司になれる様に頑張っていこうと思います。たぶん無理やけど（笑）

久田

第 89 回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

一人で役割を果たすことができるようにするために

児童生徒が、一人で役割を果たすことができるようにするためには、どのような工夫が考えられるでしょうか。

ここで大切なことは、一人でその活動ができるようにするためにどう工夫するのかということです。指導者に手を引かれて、指導者に手を添えられて役割をやり遂げるのではなく、一人でできるようにしていくことが大切です。必要以上の支援をするのではなく、必要な支援をして一人でできるという経験を大切にします。必要以上の支援をしてしまうと、児童生徒が自分でできることも指導者に頼るようになっていたり、自分から動くことができなくなってしまうことになり得る可能性があるからです。このような状況は避けたいものです。では、このような状況を作らないためにどのような工夫をすればよいのでしょうか。

重要なことは、何ができて何ができないのかを評価することです。その評価は、「服を着ることができない」とか「靴を履くことができない」というような大雑把な評価ではありません。

例えば、カップラーメンで考えてみましょう。カップラーメンを作るときには、いくつかの作業をすると思います。一つの作業をいくつかの工程に分けることを課題分析といいます。児童生徒の実態に応じて、工程を細かく分け、その一つ一つを「できること」「できないこと」「できそうなこと」に分けて評価するのです。そして、「できそうなこと」をできるようにするための工夫をして指導するということです。「できる」ところは、一人です。「できそうな」ところは、工夫を考える。「できない」ところは手伝う。というように考えるのです。このようにすると、指導しやすくなるはずですよ。

一人でできることが増えると自信や自尊心を育てることにつながります。自分でできたという経験の積み重ねが、将来の働く意欲につながっていくのです。

それは、自己肯定感を高めることにもつながります。自己に対する評価も高くなります。なぜならば、「これがあるからできる」というように評価されるからです。手伝ってもらえないとできないではなく、自分はこれがあるからできるというように評価することは重要なことなのです。このようにして、一步一步前に進めていくことが重要です。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など